

平成 21 年度秋 IT ストラテジスト試験分析速報

2009, 10, 19 (株) アイテック 情報技術教育研究部

1. 試験全体の講評

平成 21 年度から新試験になり、出題形式が大きく変わりましたが、事前に説明されていた内容とサンプル問題の内容から推測できる範囲内でしたので、特に対応が難しいという問題はなかったと思います。

2. 午前 試験（高度試験共通）の講評

新試験制度の高度区分試験では、従来の午前試験が、共通問題の午前（30 問）と試験区分ごとの専門分野の知識を問う午前（25 問）に分割されました。前回の春期試験では午前問題はすべて、応用情報技術者試験の 80 問からの抜粋になっていましたが、今回の試験も同様でした。

出題内容に関して、前回試験では新傾向問題といえるものがほとんどありませんでしたが、今回は新傾向問題が増えており、次のようなものがあります。このため、難易度も全体に高くなったといえます。

- 問 3 連結リストに対する処理時間の挙動
- 問 9 Web アクセシビリティを配慮した画面設計
- 問 18 アードバリュー分析
- 問 21 ITIL のプロセス
- 問 22 システム監査人が行った監査業務の実施記録
- 問 23 ビジネスアーキテクチャを策定する場合の成果物
- 問 25 RFI の説明
- 問 27 ラディカルイノベーションの説明

3. 午前 試験（多肢選択式問題）

全体の出題分野は、ほぼ想定通りの内容でしたが、目新しい用語なども多く、最近の動向などについても、押さえておかないといけない内容でした。目新しい問題としては、問 2 の BPO、問 18 の SECI モデル、問 19 の「死の谷」、問 21 のロングテール、問 24 の EVA などが挙げられます。また、共通フレームに関する問題が 2 問出題されましたので、今後、共通フレームに関しても、しっかり学習しておく必要がありそうです。

4. 午後 記述式問題

問 1 と問 2 は、問題文のヒントの場所が分かりやすいオーソドックスな問題でした。問 3 は、製造業に関する知識がある人は、それほど難しくなかったと思います。これに対して、問 4 は組込みソフトウェアに関する問題で、内容的にはこの分野に詳しくなくても、

理解できる内容でしたが、設問の趣旨が読み取りにくい問題でした。4問中2問選択形式になったこともあり、問題の選択が重要なポイントになったと思います。

問1 地方銀行における業務改革と営業支援システム

地方銀行の具体的な業務内容に関する問題でしたが、ヒントが数多く問題文に書かれているので、業務知識がないと解けないということはありませんでした。しかし、各設問が関連しているので、どのヒントをどの設問に関連させるのかを判断するのが難しい問題でした。

問2 エンジニアリング会社の社内システム再構築

エンジニアリング会社の社内システムの問題でしたが、業務内容は、営業管理、購買管理、開発管理などの一般的な業務でしたので、業務内容が理解できないことはなかったと思います。問題文にヒントがしっかり書かれており、設問もオーソドックスな内容が多かったので、比較的対応しやすい問題であったと思います。

問3 自動窓口機の製造販売企業におけるITを使った業務改革

製造業に関する問題でした。製造業としてはオーソドックスな問題でしたが、製造工程に関する設問が多かったので、多少、製造業の業務知識があった方が対応しやすい問題でした。設問の中には、少し、解答の観点が見つみにくいものもありました。

問4 監視カメラシステムの企画

予想通り、組込みシステムに関する問題が1問出題されました。問題文の量が約2ページで他の問題と比べて非常に短く、問題文を読解するには時間がかからなかったと思います。その分、詳しい内容が問題文に書かれていないので、解答に際しては、どの観点から解答するか、非常に迷う問題でした。

4. 午後 論述式問題

問1は過去のシステムアナリストの試験にもよく出題されているテーマなので比較的対応しやすい問題だったと思います。問2も、上級システムアドミニストレータ試験の経験のある人には対応しやすい問題でした。問3は、予想通り組込みシステムの問題でした。

問1 事業施策に対応した個別情報化システム構想の立案について

ITストラテジストの基本的な作業の一つである個別情報化システム構想の概要を述べればよいので、比較的対応しやすい問題でした。設問は、投資効果を高めるための情報システム構築上の工夫を述べる設問でしたが、これも事前に発表されていたサンプル問題と

類似していたので、多くの人が対応可能だったと思います。

問2 情報システム活用の促進策の立案について

情報システムが活用されない原因の分析について述べる設問でした。設問は基本的な内容でしたので、このような事例の経験がある人は、対応しやすい問題だったと思います。設問ウも、設問イの延長で論述すればよい内容でしたので、特に書きにくいということはありませんでした。

問3 開発工程の遅延に対処するための組込み製品の企画の変更

予想通り組込みシステムに関する問題でしたが、開発工程の遅延に対処するという観点から論述する点が特徴でした。開発工程の遅延に対応した経験があるかどうか、ポイントでした。特に、遅延の分析について、論理的な論述ができることが重要になります。設問ウは、遅延に対する変更案の作成とその評価なので、設問イと関連させれば比較的書きやすい設問内容でした。

以上